



(社)日本原子力学会は、社会的関心の高い科学技術である原子力の、広範囲にわたる学術・技術専門家集団として、社会への情報提供を行うため、本会の主要な動きについて、随時プレスリリースを行っています。

皆様におかれましても、原子力に関するお問い合わせや取材申し込みのご希望がありましたら、極力対応させていただきますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

今回は、「**高速増殖原型炉もんじゅ 運転再開についての意見表明**」です。

高速増殖原型炉もんじゅ 運転再開についての意見表明

1995年ナトリウム漏洩事故が発生した(独)日本原子力研究開発機構(以下、原子力機構)の高速増殖原型炉もんじゅ(福井県)が、今般、運転を再開しました。もんじゅは、機器の安全性向上改造工事および試験、さらに耐震性評価を終了し、原子力安全保安院の検査を受けた上で、地元の了解を経て、14年半ぶりの運転再開となりました。まさに日本の高速増殖炉開発史上最大の技術的社会的試練に対する関係者の真摯な取り組みの成果としての運転再開であり、近未来のエネルギー開発の実用化への第一歩を踏み出したと思います。ここに、関係された皆様のご努力に心から敬意を表しますとともに、地元の皆様のご理解に感謝いたします。

(社)日本原子力学会は、原子力の広範な分野の専門家集団として、もんじゅについて、特別専門委員会をはじめ学会の年会・大会での報告、発表などを通じ意見交換を行い、その果すべき役割と意義について率直に論じてまいりました。原子力学会は、エネルギー資源に乏しい上に、非常に高い脱炭素化目標を掲げている我が国にとって、高速増殖炉の開発は必須であり、また、日本の誇るべき技術であると考えます。これを発展させ、次の世代における日本のエネルギー自給の柱として開発し、利用することは、原子力に携わる専門家の使命ともいえます。その認識から今般の運転再開は意義深く、今後の真摯な取り組みが必要であると考えます。

もとより科学者、技術者は、技術者倫理と、個人としての信念に基き、科学・技術が国民の、また世界の人々の平和と幸福に寄与するよう、知識と能力を発揮することを旨としています。原子力学会としては高速増殖炉の開発意義についての、様々なご意見に対して、今後共ポジションステートメントや一般公開の討論の場において、最新の技術と情報に基づいて引き続き解説・論議してまいります。

もんじゅの運転によって得られる成果は、国内のみならず地球規模での原子力技術開発および利用、発展にとってかけがえのない経験となるものと期待しております。

原子力機構が今後、住民の安全確保、社会への説明責任、地域との相互理解を進めながら、健全にもんじゅの運転を継続されるよう、日本原子力学会として、今後の研究開発に学術の観点から、引き続き可能な限り協力・支援して参る所存であります。 以上